



上級生の太鼓で歓迎（大川内小学校入学式 4月10日）

テレビ消し

みそ汁すって

早寝早起き朝ごはん

元気いっぱい！

平成19年度
予算特集号

市民との協働による『住みたいまち・行きたいまち』の実現を

平成19年第1回定例会(3月議会)で伊万里市の平成19年度予算が決まりました。一般会計予算の総額は197億8300万円となり、国の歳入歳出改革による地方交付税の減少などこれまで以上に厳しい財政運営を強いられる中、限られた財源の中で可能な限り市民福祉の向上と将来の伊万里市づくりにつながる事業へ重点がおかれた予算編成となっています。

第1回定例会での市長の所信表明と『5つの元気なまちづくり』を基本方針とした主な予算の内容を紹介します。

平成19年 第1回定例会 所信表明

はじめに

市政運営2期目のスタートの年となった昨年は、新たな企業の進出に加え、IC関連や造船など既存誘致企業の大規模な事業拡張が決定し、雇用の拡大と地域経済の浮揚に大きな期待が持てるようになりました。

一方、関係機関や団体が推進母体となった『食を活かしたまちづくり』や各町各地区での『子ども見守り隊』など市民協働、市民主体の取り組みに加えて、小中学生をはじめとする市民の各方面にわたる全国レベルの活躍など明るい話題も多く、将来の飛躍への大きな手ごたえを感じました。

このように、地域活性化の大きな原動力となる民間の経済活動を促進する取り組みに加えて、市民の積極的なまちづくり活動も着実に進展しており、わたしのマニフェストに掲げる元気な伊万里市づくりへ向けた確かな一歩を踏み出すことができました。

そうしたなか、新たに取り組んだ第4工業用水道事業や市民ニーズに的確に対応するための中核的病院の整備、広域連携によるごみ処理施設の建設など、市勢発展の新たな土台となる大きなプロジェクトが動き出したところです。

わたしは来る平成19年度を、足取

市政を取り巻く課題と当面するプロジェクト

本市においては、これまで積極的

大や地域経済活性化に大きな効果が期待できることから取り組んでいるところであり、佐賀県との連携により着実に推進します。

に取り組んできたインフラ整備に伴う起債償還をはじめ、プロジェクトへの投資や多様な住民サービスなど幅広い財政需要にいかに対応するかが大きな課題となっており、昨年見直しを行った第4次行政改革大綱および第2次財政健全化計画に沿って

また、事業費用については、その負担が将来にわたり市政運営の妨げとならないよう、佐賀県や国などに対して財政支援を強く要望していきます。中核的病院の整備に関しましては、伊万里・有田地区の公的病院の統合に向けた準備室を設けたところであり、有田町との間で建設場所を含めた整備構想などについて鋭意協議を進めます。

これまで以上に行財政改革に取り組むとともに、創意工夫を凝らしながら堅実な財政運営に努めていきます。まず、未来志向型の伊万里市づくりというべき大きな視点から市政を

見たとき、将来の発展に欠かすことのできない大型プロジェクトが今後何年かに集中しており、その実現に向けて積極的に取り組めます。なかでも、IC関連企業の大規模な事業拡張に伴う第4工業用水道事業については、雇用の拡

前

進

元気な伊万里市づくりへ

業の大規模な事業

りも確かな『前進の年』と位置付け、引き続きこれらの重要プロジェクトを力強く推し進めながら、人も産業も活力にあふれる、元気な伊万里市づくりに向け全力を傾注し、私自身はもちろん職員一同『さわやか市政』の意識を新たにして市政運営にあたっていく覚悟です。

安心・安全の確保へ向けて

昨秋の集中豪雨被害では、想像をはるかに超える自然の恐ろしさとともに、万一に備えた災害に強いまちづくりの重要性を痛感させられました。被災した施設の一刻も早い復旧と被災農業者の復興支援に取り組むとともに、7月9日を『市民防災の日』と定め、市民一人ひとりの防

災意識の高揚を図りながら、防災パトロールの実施や災害情報の円滑な収集伝達など防災対策の充実に努めるとともに、市民の皆さんに利用していただく公共施設については、毎月の点検実施により十分な安全確保に努めるほか、交通事故の減少や火災事故の防止に向けた地道な取り組みを継続して進めていきます。

このところ、子どもたちをめぐる

新入生代表にランドセルカバーを贈呈
(立花小学校入学式 4月10日)



伊万里市長 塚部 芳和

5つの元気なまちづくり

- 1 歴史や伝統文化、特産品など地域の宝を生かした元気なまち
- 2 地域医療の充実と食のまちづくりによる日本一の健康長寿の元気なまち
- 3 企業誘致と地場産業の育成による雇用の拡大と生き生きと働ける元気なまち
- 4 教育・福祉の充実と子育て支援による安心して子どもを産み育てる元気なまち
- 5 活力ある農林水産業の育成と商業を中心とする中心市街地が輝く元気なまち

『住みたいまち・行きた
いまち』への思い

険から守る地域の取り組みを推進していきます。

市民アンケート調査によると、市民が最も期待する『住みたいまち』は、働く場に恵まれ産業経済活動が活発なまちであります。このため企業の活発な設備投資や雇用拡大を促進するとともに、農業や商業をはじめとした地場産業の活動が円滑に行われるよう支援を行い、だれもが安定した生活を送ることができるまちづくりに取り組んでいきます。

また、外部の人にとっても魅力のある『行きたいまち』をめざし、長い歴史と伝統を誇る焼き物や古伊万里ゆかりの文化、豊かな自然から生み出される恵まれた食材や食文化など、地域固有の資源を活かしたまちづくりに取り組むとともに、今後は若年労働者や団塊の世代などの市外からの転入による定住促進を積極的に進めます。

このように様々な分野において、伊万里市の元気づくりに努めるとともに市民との協働を基調として、行政の普遍の目標である『住みたいまち・行きたいまち』の実現に向け、たゆみない努力を惜しまない覚悟です。

次ページからは、以上の基本的な考えのもと、マニフェストに掲げた『5つの元気なまちづくり』の基本方針に基づいて取り組む主な施策について説明します。

歴史や伝統文化、特産品など地域の宝を生かした元気なまち

昨年、民間の研究所が行った地域ブランド調査において、食品以外の購入したい産品部門で伊万里焼が全国779市の中の1位に輝きました。

このことから焼き物の魅力を最大に生かす取り組みが重要な課題と考えられるところであり、大川内山に建設が予定されている戸栗美術館の建設促進とともに、アジアネットワーク事業による伊万里焼を再び世界に広める取り組みや、市街地においては古伊万里文化の香りを醸し出す景観形成などに努めます。

また、農産物などの特産品や伊万里ならではのイベントなど豊かな地域資源を活用して、福岡都市圏などからの観光客誘致に取り組みます。



●住みたいまち伊万里・行きたいまち伊万里推進事業 20万円

『住みたいまち伊万里・行きたいまち伊万里』の実現に向けて、定住を促進するための各種施策を市内外へ積極的にPRします

問合せ 企画政策課 財源 市20万円

●各種訪問団交流および大連市友好交流20周年記念事業 333万円

大連市との交流が20周年を迎えるため、友好都市締結のための相互訪問など更なる交流の促進、発展をめざして記念事業を行います

問合せ 男女協働・まちづくり課 財源 国際交流基金繰入金304万円
市29万円



●ツル越冬事業 208万円

ツルの越冬を促進するために環境整備を行い、ツルの越冬誘致を図ります

問合せ 農山漁村整備課 財源 県55万円 市153万円

●国際アマチュア陶芸展事業 93万円

伊万里焼の産地として広くPRを行うため、全国からアマチュア陶芸家の作品を募集し、陶芸展を開催します

問合せ 商工観光課 財源 国37万円 アマチュア陶芸展振興基金繰入金50万円 基金利子1万円 市5万円



●ウェルカム佐賀キャンペーン事業 55万円

県と市町、民間団体が一体となり、官民協働による観光推進事業を継続的に行うとともに、新たに『ウェルカム佐賀キャンペーン』として事業展開を行います

問合せ 商工観光課 財源 市55万円

●観光ボランティアガイド養成事業 14万円

来訪者に対する満足度を高め、リピーターの増加をめざすなど観光客誘致促進を図るため、観光ボランティアガイドを養成します

問合せ 商工観光課 財源 国5万円 市9万円

●福岡都市圏観光客誘致事業 50万円

福岡都市圏からの観光客の増加を図るため、地域資源や農産物などを活かした観光ルートを商品化し、観光客誘致を行います

問合せ 商工観光課 財源 市50万円



●伊万里焼ロードギャラリー事業 383万円

『焼き物の里いまり』をアピールし『住みたいまち伊万里・行きたいまち伊万里』の推進を図るため『伊万里を感じるまちなみ修景整備計画』に基づき、陶磁器を利用したモニュメントなどを設置します

問合せ先 土木管理課 財源 市債300万円 市83万円



●博物館・美術館構想研究事業 10万円

博物館・美術館の建設に向けて、基本構想策定委員会を開催し、基本構想を策定します

問合せ先 生涯学習課 財源 市10万円

●指定文化財説明板製作事業 7万円

平成18年度に購入した大川内鍋島窯跡の藩役宅跡に史跡の概要などを記述した説明板を設置します

問合せ先 生涯学習課 財源 市7万円



●カブトガニ展示観察事業 33万円

本市の環境保護のシンボルでもあるカブトガニについて、保護活動を充実させるために平成18年度に引き続き生態展示を行います

問合せ先 生涯学習課 財源 市33万円

●伊万里塾推進事業 70万円

地域の歴史、文化、風土、自然などの特性を活かした地域づくりを推進するため、地域の特性や課題などを踏まえた生涯学習を各種団体と連携しながら、各町公民館を拠点に独自の講座などを開催します

問合せ先 生涯学習課 財源 市70万円

●特色ある公民館創造事業 40万円

地域づくりの拠点である公民館の主導のもと、特色ある地域づくりを実践するため、当該事業を委託し、活力ある公民館活動を推進します

問合せ先 生涯学習課 財源 市40万円



●社会教育施設耐震化優先度調査事業 108万円

災害発生時の避難場所などになる各町公民館や生涯学習センターなどについて、耐震診断の事前調査である耐震化優先度調査を行います

問合せ先 生涯学習課 財源 国36万円 市72万円

●ウォーキング大会開催事業 60万円

誰もが気軽に参加できる『歩きたくなる街伊万里ウォーク』を開催し、市民の健康づくりを推進するとともに、全国のウォーキングファンへ呼びかけることにより、伊万里を広くPRします

問合せ先 体育保健課 財源 国24万円 市36万円



●社会体育施設耐震化優先度調査事業 60万円

災害発生時の避難場所などになる国見台体育館などについて耐震診断の事前調査である耐震化優先度調査を行います

問合せ先 体育保健課 財源 国20万円 市40万円

地域医療の充実と食のまちづくりによる日本一の健康長寿の元気なまち

将来にわたって市民が安心できる高度な医療体制を確立するため、西部保健医療圏全体を見据えながら、中核的病院の整備について有田町や関係機関と協議を重ねていくとともに、医師会の協力を得ながら休日・夜間の救急医療にも対応を図っていきます。

また、朝ごはん運動を中心に食育の推進をはじめとする食を活かしたまちづくりについて、一層の普及拡大に努めるとともに『たっしやか体操』や手軽に取り組めるレクリエーションの実践などを通じて、市民が元気で豊かな人生を送ることのできる健康長寿のまちづくりに努めます。



●中核的病院整備推進事業 890万円

西部保健医療圏(伊万里市、有田町)の中核となる新統合病院の整備を推進します

問合せ 中核的病院準備室 財源 市890万円

●食を活かしたまちづくり事業 191万円

『食のまちづくり推進計画』に基づき、市民と行政との協働により計画的かつ効率的に事業を推進します

問合せ 男女協働・まちづくり課 財源 市191万円

●医療費助成事業 2億1845万円

保健の向上と福祉の増進を図るため、重度心身障害者、乳幼児、母子家庭などに対し、医療費を助成します

重度心身障害者医療費助成事業 1億2886万円

乳幼児医療費助成事業 6440万円

ひとり親家庭等医療費助成事業 2519万円

問合せ 福祉課 財源 県1億876万円 高額療養費受入金21万円 市1億948万円



●シルバー人材センター支援事業 1235万円

高齢者の就業促進に取り組むシルバー人材センターに対し、支援を行います

問合せ 長寿社会課 財源 市1235万円

●緊急通報システム事業 349万円

突発的で緊急を要する疾患などに対応するため、在宅の一人暮らし高齢者などに対し、緊急通報機器を貸与します

問合せ 長寿社会課 財源 市349万円



●老人保護措置事業 1億4821万円

おおむね65歳以上で、環境上の理由および経済的理由により在宅での生活が困難な高齢者を養護老人ホームに措置します

問合せ 長寿社会課 財源 老人施設入所者負担金2060万円 市1億2761万円

●敬老会開催事業 600万円

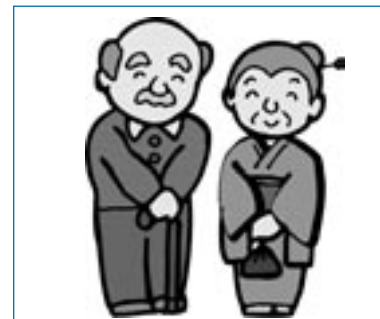
各町において敬老会を開催します

問合せ 長寿社会課 財源 市600万円



●老人クラブ活動事業 310万円

伊万里市老人クラブ連合会および各町単位老人クラブに対し、補助を行います
問合せ先 長寿社会課 財源 県137万円 市173万円



●在宅当番医制運営事業 58万円

休日・夜間急患医療センターでの初期救急医療体制を補完し、連休における耳鼻科、眼科の救急患者への適切な医療の提供を図るため、事業を伊万里・有田地区医師会に委託します
問合せ先 健康づくり課 財源 市58万円



●病院群輪番制病院運営事業 467万円

初期救急医療（休日・夜間急患医療センター、在宅当番医制）の後方支援として、休日において入院治療を必要とする重症救急患者の医療を確保するため、輪番制により開院する伊万里・西松浦地区内の11病院に対し、運営に要する経費の補助を行います
問合せ先 健康づくり課 財源 受託事業収入201万円
市266万円



●肝疾患対策事業 114万円

住民総合健診時に、30歳代を対象にB型・C型肝炎ウイルス検査などを実施するとともに、検診機関が事業所に出向き行う肝炎ウイルス検査（職域検診）の検診費用の一部を助成します
問合せ先 健康づくり課 財源 県11万円 検診徴収金21万円
市82万円



●予防接種事業 4129万円

感染症の発生を未然に防止するため、予防接種法に基づき、各種予防接種および高齢者のインフルエンザ予防接種を実施します
問合せ先 健康づくり課 財源 市4129万円

企業誘致と地場産業の育成による雇用の拡大と生き生きと働ける元気なまち

新たな企業の進出に加え、IC関連や造船など既存企業の大規模な事業拡張によって伊万里団地が90%、七ツ島工業団地では77%の分譲率となっており、残りの分譲地の完売をめざして、誘致企業の関連企業を中心に積極的に誘致活動を行っていくほか、設備投資に対する支援や中小企業への資金融資などを通じて地場企業の活性化に努めていきます。

また、既存企業の事業拡張などに伴い、数年のうちに千人を超える新たな雇用が予定されており、新規学卒者の転出に歯止めがかかることが期待されることです。

なお、市外からの通勤者も相当数見込まれることから、転入を奨励することによる定住促進にも力を入れていきます。



●伊万里港ポートセールス推進事業 100万円

(伊万里港開港40周年記念事業開催費補助金)

伊万里港開港40周年を契機に、伊万里港の必要性、利便性などを市内外にアピールするため、記念事業として『伊万里みなと祭り』を開催します

問合せ 開発推進課 財源 市100万円

●伊万里・アジアネットワーク事業 306万円

中国を中心とした東アジアをターゲットに、伊万里の持つ資源を活用して『ビジネスベース』への移行を前提に事業を推進します

問合せ 開発推進課 財源 県46万円 市260万円

●中小企業振興資金貸付事業 1億7018万円

産業振興策として、市内中小企業の資金調達の円滑化を図るための原資として金融機関へ預託します

問合せ 商工観光課 財源 中小企業振興資金預託金
1億7000万円 市18万円

●工場等設置奨励事業 1489万円

投下固定資産が2000万円を超える投資に対し、課税免除（農工法）および不均一課税（半島振興法）を行い、不均一課税分については翌年度に納税額を奨励金として交付し、工場などの新設、増設の推進を図ります

問合せ 商工観光課 財源 市1489万円

●企業訪問等立地勧奨事業 184万円

1社でも多くの優良企業の誘致を実現するため、豊富で良質な労働力や東アジア地域に至近な地理的優位性を積極的にPRするなど、企業訪問を中心とした立地勧奨を展開します

問合せ 企業誘致推進課 財源 市184万円



教育・福祉の充実と 子育て支援による安 心して子どもを産み 育てる元気なまち

全国的に子どもたちをめぐる犯罪や事故が多発し、いじめ問題が深刻化するなか、子どもたちが命の大切さを感じながら、心身ともに健やかに成長していけるように家庭や学校、地域がともに力を合わせていかなければなりません。このため、子どもたちの安全を確保する『見守り隊』や思いやりを心で育てる『いじめなし運動』といった地域ぐるみの取り組みを提唱したところであり、関係機関や団体との連携を深めながら引き続き積極的に推進していきます。

また、不妊治療や子どもの医療費に対する助成など子育て世代の経済的な負担軽減を図るほか、幅広いニーズに応じた保育サービスなどきめ細かな子育て支援策を講じることにより、安心感と喜びに満ちて子どもを産み育てることのできる環境づくりに努めます。

●留守家庭児童クラブ管理運営事業 4648万円

就労等により、昼間保護者のいない家庭の児童（小学1～3年生）に対し、安全な生活の場や遊びの場を提供し健全な育成を図ります

問合せ 教育総務課

財源 県1515万円 児童クラブ利用料1575万円 児童クラブ保険料受入金31万円 市1527万円

●一時保育促進事業 501万円

保育園児でない在宅の乳幼児を一時的に保育所において保育します

問合せ 福祉課

財源 県334万円 市167万円

●幼児インフルエンザ予防接種費助成事業 193万円

小学校就学前児童のインフルエンザ予防接種に要する費用の一部を助成し、保護者の負担軽減を図ります

問合せ 福祉課

財源 市193万円

●子育てファミリーサポート事業 32万円

一時保育や休日保育で対応できない保育需要への対応として、アドバイザー（子育て支援センター）が依頼会員と提供会員を調整し、提供会員が保育サービスを提供します

問合せ 福祉課

財源 県16万円 市16万円

●こども医療費助成事業 136万円

3歳～小学校就学前の児童について、入院時の医療費に係る自己負担額の一部を助成します

問合せ 福祉課

財源 市136万円

●思春期における保健福祉体験学習事業 4万円

思春期の生徒に対し、性教育などに関する講演会や赤ちゃんとのふれあい体験実習を実施し、生命の尊厳や父性母性の育成を図ります

問合せ 健康づくり課

財源 県2万円 市2万円

●不妊治療エンゼルサポート事業 75万円

不妊治療における人工授精・高度生殖医療は健康保険適用外であるとともに、治療費が高額であることから、その治療費の一部を助成し、不妊で悩む家庭の経済的負担の軽減を図ります

問合せ 健康づくり課

財源 市75万円



●都市公園整備事業 3367万円

伊万里ファミリーパークの整備を引き続き行います

問合先 都市開発課 財源 国1500万円 市債1720万円
市147万円



●スクールアドバイザー事業 447万円

教育相談の専門的な知識・経験を有するスクールアドバイザーを、スクールカウンセラー未配置校の小学校に3名配置し、適切なカウンセリングを実施します

問合先 学校教育課 財源 県223万円 市224万円

●学力向上対策推進事業 146万円

小中学校の児童生徒を対象に到達度テストなどを実施し、基礎学力の定着度合いを把握することにより、今後のきめ細やかな指導の充実を図ります

問合先 学校教育課 財源 教育振興奨励基金繰入金100万円
市46万円

●特別支援児童生徒サポート事業 228万円

特別支援を要する児童生徒の介護、支援を行うため臨時雇職員を配置し、学習環境の向上、自立を図ります

問合先 学校教育課 財源 市228万円



●『オンリーワン』のさが体験活動支援事業 422万円

子どもたちの豊かな感性と郷土への理解と愛着を醸成するため、佐賀のよさを活かし、かつ地域の実状に応じた農林水産業や窯業などの地場産業体験活動を実施します

問合先 学校教育課 財源 県422万円

●特色ある学校創造事業 300万円

教育活動に関する予算の用途について、学校長の裁量の幅を広げることにより、創意工夫を生かした教育活動を行い、学校の自主性、自律性を向上させ、特色ある学校づくりを推進します

問合先 学校教育課 財源 教育振興奨励基金繰入金300万円



●きらきら伊万里っ子育成事業 80万円

児童生徒の豊かな心の育成および自己実現の基礎となる学力の向上をめざすため、これからの国際社会に対応できる人材の育成や教材開発などを行います

問合先 学校教育課 財源 教育振興奨励基金繰入金80万円

●小・中学校耐震化事業 327万円

平成18年度に実施した小中学校耐震化優先度調査に基づき、小中学校の耐震診断を行います

問合先 教育総務課 財源 国109万円 市218万円

●中学校建設事業 2億6581万円

老朽化の著しい国見中学校について、年次計画に基づき屋内運動場の建設を行います

問合先 教育総務課 財源 国6931万円 市債1億3550万円
公共施設整備基金繰入金6000万円
市100万円



●幼稚園空調整備事業 161万円

空調設備が未整備の黒川幼稚園について、年次的に整備することとし、今年度は遊戯室に空調を整備します

問合せ 学校教育課 財源 市債120万円 市41万円

●放課後子ども教室推進事業 54万円

市内全ての子どもを対象に、安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の人たちの参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動などの取り組みを推進します

問合せ 学校教育課 財源 国18万円 県18万円
市18万円



●ブックスタート事業 33万円

生後3か月を迎えた赤ちゃんとその保護者に対して、3か月児健診時に絵本を配布するとともに、ボランティアと協働で読み聞かせを行います

問合せ 市民図書館 財源 市33万円

市民協働の取り組み

5つの元気づくり政策を展開していくにあたっては、市民協働の取り組みが根底にあることはいまでもありません。

そこで、『市民が主役のまちづくり条例』をはじめ、各種のまちづくり宣言を通じて市民一人ひとりの実践、地域ぐるみの取り組みを促すとともに、タウンミーティングを継続して実施するなど市民の目線に立った市政運営に努めます。

また、すでにその兆しが見られる市民や地域主導によるまちづくりの流れを、各町コミュニティ単位での特色を生かした自主的な取り組みへとつなげ、『地域にできることは地域の手で』という、いわば地域分権をめざした元気な地域づくりに向けた、新たな仕組みを検討していきます。

●第5次総合計画策定事業 526万円

市政全般の方向性を示す重要な計画である第5次総合計画の策定に向けて、基礎調査などを実施します。

問合せ 企画政策課 財源 市526万円

●21世紀市民ゆめづくり計画支援事業 389万円

市民と行政の協働による新しい伊万里、楽しい夢のあるまちづくりを実現するために、市民から夢づくり計画やアイデアを募集して支援を行います

問合せ 男女協働・まちづくり課 財源 ふるさとづくり基金利子6万円
市383万円

●民間活動フォローアップ事業 50万円

市民との協働による新しいまちづくりの活動や、独創性のある市民のまちづくりに対して支援を行うことにより、活動の活性化や市民主体のまちづくり、元気なひとづくりを行います

問合せ 男女協働・まちづくり課 財源 市50万円

市民の目線に立った

市政運営に努めます



活力ある農林水産業 の育成と商業を中心 とする中心市街地が 輝く元気なまち

水田農業を中心とした農業政策の転換期にあつて、関係機関や団体と連携しながら、認定農業者や集落営農組合など地域農業の担い手の育成確保に努めるとともに、園芸や畜産など伊万里ブランドの普及拡大を図ります。

また、学校給食で『ふるさと食材伊万里の日』を制定するなど、地産地消の取り組みを拡大するとともに、消費者や都市住民との交流などを通じて農村の活性化に取り組みます。

一方、中心市街地では商店街による各種イベントなどの取り組みについて、集客力向上につながるよう支援するとともに、昨年発足した観光ボランティアガイドの活動により、古伊万里積出港ゆかりのスポットをめぐる市街地観光が定着を見せていますので、受け入れ体制のさらなる充実を支援し、一層の観光客の増加を図るなど市街地活性化にも取り組んでいきます。

●中山間地域等直接支払交付金事業 1億8076万円

中山間地域における農業生産条件の是正、耕作放棄地の発生防止、水源かん養、洪水防止などの多面的機能の維持増進を図るため、交付金を交付します

問合せ 農業振興課

財源 県1億3584万円 市4492万円

●新たな米政策対策事業 3649万円

生産組織の育成、強化による良質な米、麦、大豆の安定的供給を確立するため、生産組織が実施する高性能機械導入などの経費に対し補助を行います

問合せ 農業振興課

財源 県2875万円 市774万円

●有害鳥獣対策事業 591万円

農作物に深刻な被害をもたらす有害鳥獣の駆除と被害防止対策に要する経費、並びに駆除従事者の確保のための狩猟免許取得に要する経費の一部を助成します

問合せ 農業振興課

財源 市591万円

●グリーンツーリズム推進事業 115万円

本市の特色ある農畜水産物の魅力を市内外にアピールすることにより、農畜水産物の評価向上と人的交流を促進し、農業・農村の活力増進を図ります

問合せ 農業振興課

財源 県67万円 市48万円

●伊万里農業振興地域整備計画策定事業 140万円

農業地域を保全し形成すること、並びに農業に関する公共投資や農業振興施策を計画的に推進するための計画を策定します

問合せ 農業振興課

財源 市140万円

●『伊万里農業未来塾』新規就農者育成確保推進事業 15万円

新規就農希望者を対象に、農作物の栽培管理や農機具の操作などの講習、指導を行う『伊万里農業未来塾』を開催します

問合せ 農業振興課

財源 市15万円

●魅力あるさが園芸農業確立対策事業 3932万円

園芸（果樹、野菜）を経営の柱とするプロ農業者の育成、確保を図るため、農業用機械や施設を導入する経費に対し補助を行います

問合せ 農業振興課

財源 県3024万円 市908万円



●伊万里牛振興会支援事業 211万円

伊万里牛の銘柄確立(関西市場での共励会)と販路拡大(東京市場)を図り、伊万里牛の生産振興を促進します

問合せ先 農業振興課 財源 市211万円

●さが畜産自給力強化対策事業 309万円

肥育素牛の生産拡大と牛舎並びにふん尿処理施設・機械の整備に必要な経費および自給飼料の増産を図るための機械などの導入に対し助成します

問合せ先 農業振興課 財源 県238万円 市71万円

●耕畜連携・資源循環型農業推進事業 661万円

耕種農家と畜産農家の連携を促進するため、良質堆肥生産施設の整備や堆肥散布機などの導入に対し助成します

問合せ先 農業振興課 財源 県508万円 市153万円

●基盤整備促進事業 2706万円

水田の高上げ、排水路の改修などの基盤整備により生産性の向上および効率的・安定的な農業経営を図ります

問合せ先 農山漁村整備課 財源 基盤整備促進事業費分担金405万円
県1903万円 市398万円

●小規模土地改良事業 1000万円

国、県の採択基準に適合しない農道舗装、水路改良などの小規模な土地改良事業に対して補助します

問合せ先 農山漁村整備課 財源 市1000万円

●小規模災害復旧支援事業 1000万円

平成18年9月の秋雨前線豪雨および台風13号により被災した農地や農業用施設において、国庫補助の対象にならなかった小規模な災害箇所について、復旧に要する経費の一部を助成します

問合せ先 農山漁村整備課 財源 市1000万円

●森林施業計画策定事業 106万円

市内47団地分の森林施業計画について、造林事業の円滑な推進を図るため、5年経過をめぐりに段階的な計画の更新を行います

問合せ先 農山漁村整備課 財源 市106万円

●緑の少年団交流事業 10万円

緑の少年団の協調心と緑を慈しむ心の醸成を目的に、有田町の緑の少年団との交流会を開催します

問合せ先 農山漁村整備課 財源 県5万円 市5万円

●どっちゃん祭り・いまり秋祭り事業 456万円

『どっちゃん祭り』、『いまり秋祭り』の開催に対し支援を行います

問合せ先 商工観光課 財源 国182万円 274万円



一般会計

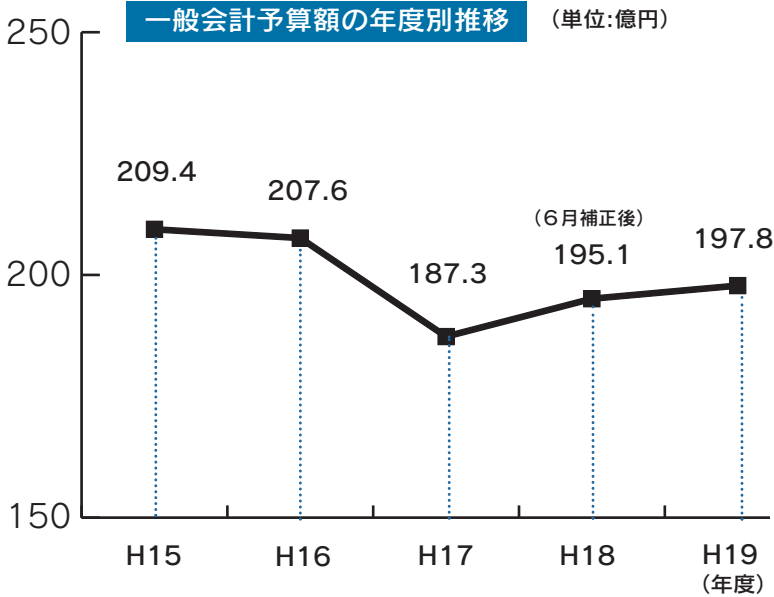
当初予算総額は

197億8300万円

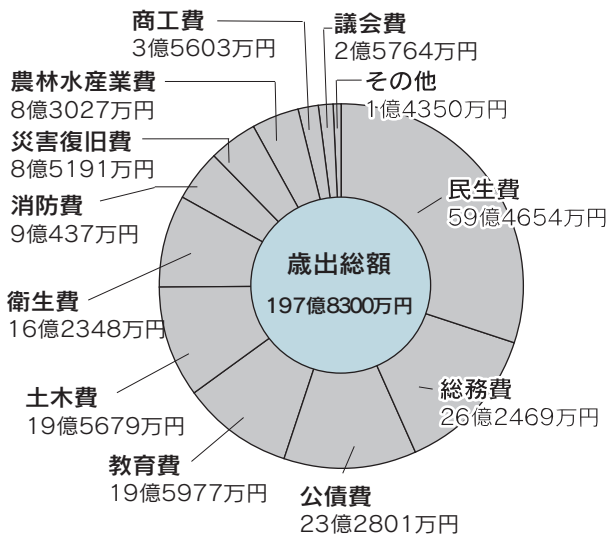
平成19年度の伊万里市一般会計当初予算は、総額で197億8300万円となっています。これは、市長選挙のため当初の骨格予算を肉付けした平成18年度の6月補正後と比較すると、14%の増加となりました。

厳しい財政状況の中で、事業の重要性、緊急性を考慮し、財源の重点的、効率的運用を図り予算編成を行いました。

一般会計予算額の年度別推移 (単位:億円)

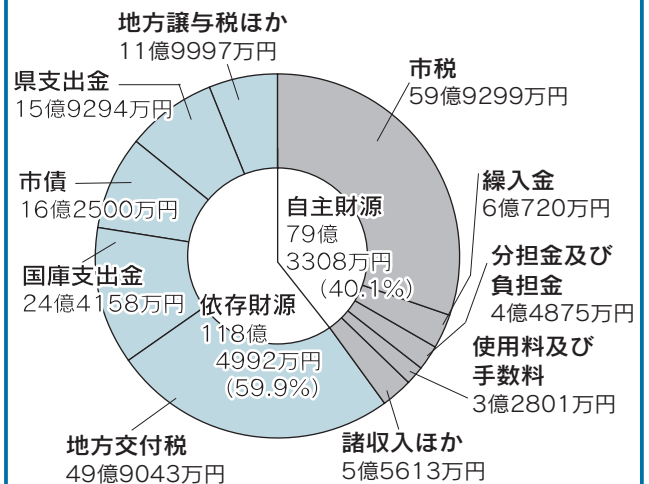


歳出



- 民生費……………社会福祉や児童福祉、生活保護など市民の安定した生活を保障する経費です
- 総務費……………企画、男女協働、国際交流など、主に総務部門に要する経費です
- 公債費……………借入金の返済に要する経費です
- 教育費……………小・中学校の学校教育をはじめ、社会教育や保健体育など教育全般の経費です
- 土木費……………道路、河川、住宅、公園、市街地などの整備や維持管理に要する経費です
- 衛生費……………保健衛生、ごみの収集・処理などに要する経費です
- 消防費……………火災など災害に対応するための経費です
- 災害復旧費……………農林・土木災害を復旧する経費です
- 農林水産業費……………農林水産業の振興に要する経費です
- 商工費……………商工業や観光の振興に要する経費です
- 議会費……………議会運営に要する経費です
- その他……………労働費、諸支出金などです

歳入



- 市税……………個人と法人の市民税、固定資産税、軽自動車税などです
- 繰入金……………基金や特別会計からの繰入金です
- 分担金・負担金……………災害復旧事業の負担金、保育園の入所負担金などです
- 使用料・手数料……………施設の使用料、戸籍や住民票の謄・抄本の手数料などです
- 諸収入……………貸付金の元利収入や預金利子などです
- 地方交付税……………国が徴収した税金から、地方公共団体が等しく事務を進められるよう一定の基準で交付されるものです
- 国庫支出金……………国からの負担金や補助金です
- 市債……………市が行う事業の財源として、国や金融機関などから借り入れる借入金です
- 県支出金……………県からの負担金や補助金です
- 地方譲与税ほか……………国が徴収した税金から譲与されるものです

特別会計

事業を行う時、特定の収入をもってその支出に充て、一般会計と区分して経理する必要がある場合に特別会計を設けています。

平成19年度は、表1のとおり7つの特別会計を設けて事業を実施します。これら特別会計の予算総額は、196億6832万円となっています。

■国民健康保険特別会計

国民健康保険税や国庫支出金を主な財源として、医療給付を行うための会計です

■介護保険特別会計

介護保険料や国庫支出金を主な財源として、介護サービスを行うための会計です

■立花台地開発事業特別会計

公共事業に伴う代替地供給を目的とした、宅地開発を行うための会計です

表1 特別会計予算額

(単位:万円)

特別会計名	予算額
国民健康保険	647,897
介護保険	466,276
立花台地開発事業	1,393
公共下水道事業	215,929
農業集落排水事業	13,086
市営駐車場	1,624
老人保健	620,627

表2 企業会計予算額

(単位:万円)

区分	水道事業	工業用水道事業	病院事業	
収益的収支	収入	136,065	80,451	111,015
	支出	136,065	80,451	111,015
資本的収支	収入	103,643	827,995	24,312
	支出	158,190	836,383	24,343

表3 市債現在高

会計区分	現在高 (単位:万円)
一般会計	2,090,952
特別会計	
公共下水道事業	1,532,144
農業集落排水事業	156,720
計	3,779,816

会計区分	現在高 (単位:万円)
企業会計	
水道事業	485,610
工業用水道事業	529,617
病院事業	23,792
計	1,039,019

※平成18年度3月補正後の金額です
 ※主な借入先は、財務省、総務省、公営企業金融公庫、佐賀県、市中金融機関などです

■公共下水道事業特別会計

快適な生活環境の実現をめざし、下水道整備や処理場の維持管理を行うための会計です

■農業集落排水事業特別会計

農村地域の快適な生活環境の実現をめざし、排水事業を行うための会計です

■市営駐車場特別会計

中心市街地や商店街への来訪者の利便を図る目的で設置している市営駐車場の会計です

■老人保健特別会計

75歳以上の高齢者と、70歳以上で一定の障害がある人を対象に医療給付を行うための会計です

企業会計

経営成績を明確にするため、市は3つの公営企業を設けています。それぞれの会計ごとの予算額は表2のとおりです。

■水道事業特別会計

安心して飲める水を供給するため、水道用料などを財源に、事業運営や施設整備などを行う会計です

■工業用水道事業特別会計

工業用水を供給するため、使用料などを財源に、事業運営や施設整備などを行う会計です

■病院事業特別会計

市民の健康保持に必要な医療提供のため、診療報酬などを財源に、事業運営や施設整備などを行う会計です

市債現在高

市が行う建設事業などの財源として、国や県、金融機関などから借り入れている市債の額は表3のとおりです。

平成19年度予算特集号



推進します

食を活かした

まちづくり

■発行日／平成19年4月

■発行編集／伊万里市役所情報広報課広報係
(0955)23-4313

〒848-8501 佐賀県伊万里市立花町1355番地1

■伊万里市のホームページ
<http://www.city.imari.saga.jp/>

■印刷／山口印刷株式会社